

# 西宮市立郷土資料館ニュース



第3号 1988年7月1日発行

資料館ノート

## 第3回特別展「道・旅・宿場」

(昭和63年8月6日→8月28日)

### 1. 西宮と街道

江戸幕府は、幕藩体制を形成・維持するために、戦国大名の分国中心であった交通経路を、江戸を中心とした五街道を基幹とする交通体系に改編した。五街道とは、東海道・中山道・日光道中・奥州道中・甲州道中および水戸佐倉道で、それらの付属街道を含め、幕府道中奉行の支配下にあった。江戸に収斂するこれらの道からは、勘定奉行の支配に属する伊勢路・中国路・佐渡路などの主要な脇往還が延び、さらに地方では各領国ごとに脇街道が整備された。それは幕府の運輸・通信業務の円滑な遂行を主な目的としたもので、宿駅には公用輸送に供するため、公用人馬の常置が義務づけられた。街道沿線の宿駅には、参勤交替の大名などが宿泊に使う「本陣・脇本陣」、物資の運搬などを取り仕切る「問屋場」、一般の旅人が宿泊する「旅籠」などがあつた。

しかし、これら公用の運輸通信業務の円滑な遂行のため、幕府が行った宿駅厚遇策に比べ、宿駅が強いられた負担は多大なものであつた。今残る資料の多くはこの内容を如実に語っており、特に江戸時代の陸上交通全体を考える際、看過できない問題を含んでいる。

現西宮市域には、かつて「西宮宿」「生瀬宿」の二駅が所在した。前者は「山崎通」、いわ

ゆる「西国街道」の終着駅で、大坂より続く中国路と交差する交通の要地に位置した。一方、後者は当時の大観光地「湯山」(有馬)への入口であり、また三田方面から大坂へ流れる物資輸送の中継地にあたり、両宿ともに「二十五人二十五匹」の公用人馬の常置が義務づけられていた。両宿がいわゆる宿駅業務に従事していたのはかなり古くからで、17世紀はじめの資料にその名を見ることができる。

### 2. 主な展示

今回の特別展では、市内に残されている浄橋寺文書をはじめとする各種資料を核に、広く市外・県外からも関連資料を借用し、かつて西宮や生瀬で繁栄した宿駅の姿を偲ぶことを主眼とした。特に、問屋場に関連した(財)小運送協会物流資料館所蔵の資料、旧街道本陣の姿を今に伝える郡山宿本陣(茨木市)・草津宿本陣(草津市)・矢掛宿本陣(岡山県矢掛町)の資料や、江戸時代の庶民信仰の中心であつた伊勢神宮への道筋に残る旅籠の関連資料は、いずれも江戸時代の交通制度を理解するうえで欠くことのできない資料である。また、西宮宿が「山崎通」と中国路の交差点であつたところから、各道筋の宿駅関係資料所蔵者のご協力もいただき、当時の西宮をとりまいていた街道と宿駅の様子も展示したい。

## 五ヶ山古墳群第1号墳および第2号墳出土の馬具

合田茂伸

五ヶ山古墳群は仁川町六丁目、標高約140mの丘陵上に位置する。14基の古墳が存在したらしい。第1号墳・第2号墳ともに南に開口する横穴式石室を主体部とする。いずれも、『西宮市史』第7巻「埋蔵文化財調査記録」（1967年 武藤 誠編）に墳丘・石室・出土遺物などの実測図およびその記述が掲載されている。出土遺物には若干の馬具が含まれていて、最近の観察によっていくつかの知見を得たので、今回、その実測図を掲載し、観察結果を述べてみたい。ただし、実測図1～12は第1号墳、13～17は第2号墳出土馬具の一部である。その他の遺物は前掲書を参照されたい。

1は鉄地金銅張の鏡板で、地板と文様板からなる。最大長108mmを測るが、全体の錆化が著しい。銚は観察できない。裏面中央部に地板の破損部分があって、その中に7mm×3mmの長方形孔が認められるが、表面に貫通しているかどうかかわからない。2・3は鞍であろう。2本の鉄棒と円形座金具からなる。銚具の基部の処理は観察できない。3は座金が失われていて、4がそれかと思われたが、2の座金とは法量が一致しない。5・6は幅24mmを測る帯状をなす鉄地金銅張の金具である。端部は70～80°の角度をもって斜めに終わる。銚は頭部径が約3mmで、約15mmの間隔

をもって2列にわたって打たれている。脚部は裏面に貫通する。裏面には漆と平織の布が残存し、それらを包むように鉄板が折り返されている。5・6ともに図のような湾曲がある。表面には波状文・列点文・2列の破線が繞る。似た文様が、奈良県市尾墓山古墳（河上邦彦『市尾墓山古墳』1984年）・福井県十善の森古墳（斎藤優『若狭上中町の古墳』1970年）の出土遺物などにある。7～9は5～6葉の花弁状座金を有する鉄地金銅張の飾金具で、頭部は直径約20mmの球状に復元できる。脚部は基部から約3mmまでの部分は錆化が少なく、さらに15mmの箇所まで直角に屈曲している。10～12は小鉤形をなす金銅張の皮帯端金具で、2個の銚で固定される。皮革と鉄板の間には漆層が認められる。脚部は頭部から約9mmの箇所まで屈曲している。鉄板の端部は総て内側に折り返されている。13・14は、いずれも銚止めされた金具であるが、使用部分は不明である。15は鞍縁金具で、頭部径約9mmの銚が約20mm間隔で打たれている。鉄地金銅張。16・17は洲浜金具で、裏面には漆層・木質が観察できる。

以上が概要であるが、鏡板・帯状金具・花弁座金を有する飾金具などについての類例を示すことができない。諸氏のご教示を乞う次第である。（当館嘱託）

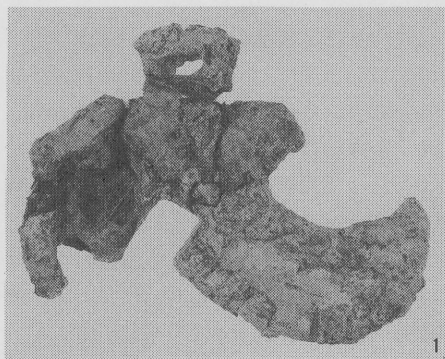


写真1 鏡板

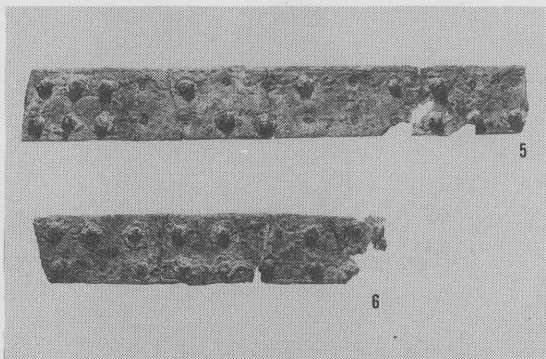


写真2 带状金具

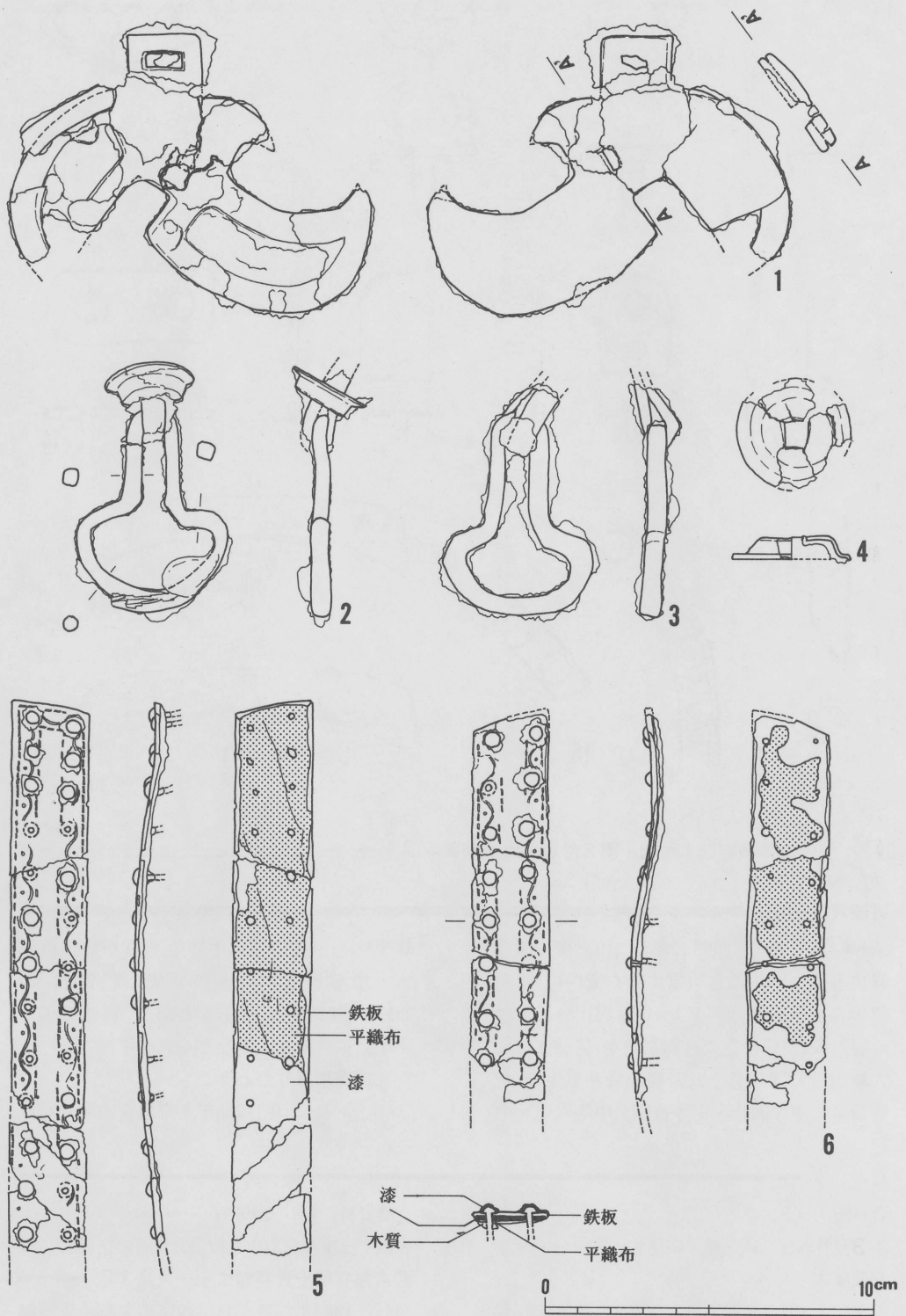


図1 五ヶ山古墳群第1号墳出土遺物実測図

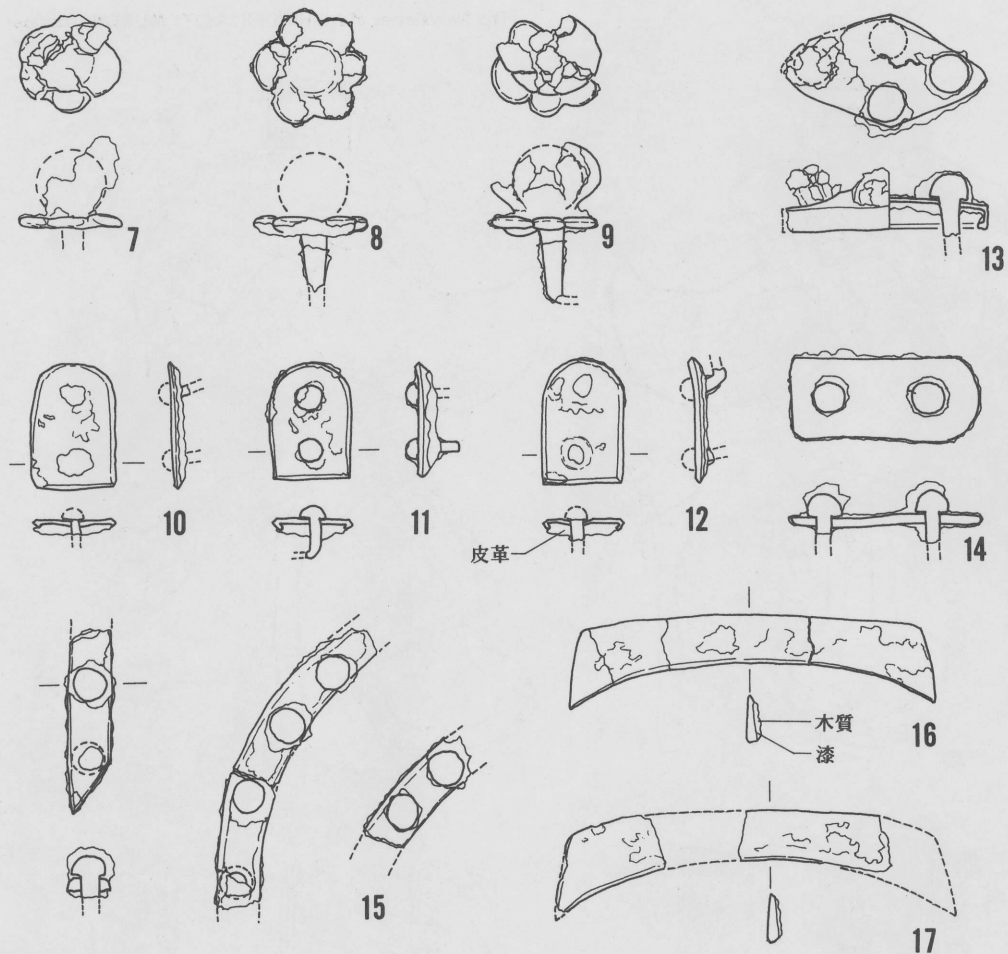


図2 五ヶ山古墳群第1号墳・第2号墳出土遺物実測図

寄贈資料一覧

昭和62年：家庭用張物しんし（中島儀一郎）、綿摘み籠・千歯こき（橋本惣右衛門）、昭和63年：水車3点・スタレ（門戸農会）、足踏み脱穀機（前田たきこ）、和文読本（伊藤英男）、大峰山行者講祭具一式27点（吉井忠生）、中等数学・中等国語・中等被服・中等育児・中

等生物・中等物象・中等地理ほか暫定教科書・中等歴史・日本の歴史・THE ROAD TO ENGLISH・ノートなど53点（井上雅子）、小学読本・和文読本など6点（中村 弘）  
ご寄贈ありがとうございました。

（昭和63年4月現在、敬称略）

目次

資料館ノート  
 第3回特別展「道・旅・宿場」…………… 1  
 収蔵庫ノート  
 五ヶ山古墳群第1号墳および第2号墳出土の馬具（合田茂伸）…… 2  
 第2号の訂正：4頁左31行 ニョチウガケ→ニチヨウガケ

寄贈資料一覧…………… 4  
 表紙：三重県鳥羽市日和山方角石の拓影  
 西宮市立郷土資料館ニュース第3号  
 発行 1988年7月1日 西宮市立郷土資料館  
 〒662 西宮市川添町15番26号 Ⅸ0798-33-1298